

■研究・実践の課題（テーマ）

筋・骨格の痛みの機能形態学的研究

■主任研究者 杉浦康夫

■共同研究者 安井正佐也

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

ヒトにおいて慢性あるいは過度なストレスは身体に病的疼痛を引き起こす。また筋線維筋痛症や繰り返される寒冷刺激によるアロデニアなどの痛み症は多くみられる症例であるが、その原因については明らかにされていない。いずれの例も適当な実験動物を作ることによりそのメカニズムが明らかにされつつある。それによると、前例では脊髄におけるミクログリアの発現、酸感受性受容体の発現の増加がみられ、酸感受性受容体を抑制する拮抗剤でその痛みがおさえられ、後者では前者と同様にこの惹起される痛みでミクログリアの増加が脊髄にみられ、インターフェロン第8因子のミクログリアでの増加を示し、インターフェロン第8因子欠損マウスではこのいたみがみられなかった。これらの結果から痛みの機能形態学的研究については得られたデータについて、主任研究員である杉浦康夫と協力、検討している。本例で末梢神経系および中枢神経系での障害が確認でないが、何らかの疼痛発生機序にミクログリアが関与するが、ミクログリア単独ではなく、機械的あるいは温度受容体が関与することで痛みが発症するのではないかと予想して、検討を進めている。